

薬物治療のマネジメントを担うために ● 第1回

「顔の見える薬剤師」の配置に向け 人の配置、組織のあり方を模索

高知県・高知市病院企業団立高知医療センター 薬剤局長
田中照夫

図 薬剤局の組織図

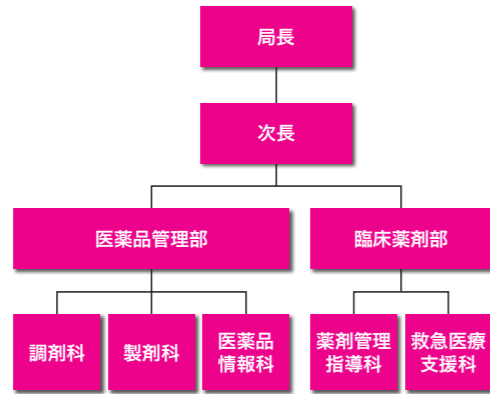


表 病棟業務評価指標

- ① 勤務日数
- ② 服薬指導実施患者数
- ③ 薬剤管理指導算定件数
- ④ 麻薬指導加算件数
- ⑤ 退院時服薬指導加算件数
- ⑥ 薬歴管理実施患者数
- ⑦ 入院時持参薬鑑別・登録件数
- ⑧ 医薬品情報・提供件数
- ⑨ 入院患者からの相談件数
- ⑩ 医薬品安全管理対応件数
- ⑪ 薬剤(麻薬・向精神薬・配置薬等)管理件数
- ⑫ 抗菌薬使用届チェック件数
- ⑬ 抗菌薬初期投与設定件数
- ⑭ TDM実施件数
- ⑮ 副作用情報収集件数
- ⑯ プレアボイド件数

DATA
高知県・高知市病院企業団立高知医療センター
高知県高知市地2125番地1
TEL: 088-837-3000
URL: http://www2.khsc.or.jp/
病床数: 632床(一般574床、結核50床、感染8床)

当院は、2005年3月に高知県立中央病院と高知市立市民病院が統合して誕生した。基本理念である「医療の主人公は患者さん」を実現すべく、医療局、看護局、薬剤局、医療技術局、栄養局、事務局の6局を並列とし、各局の権限と責任を明確化することで、各職種が専門性を発揮する「6局体制」が構築されている。

筆者は、国立大学病院の薬剤部門でマネジメントを十数年間経験した後、開院の1年半前に創設準備室の薬剤チーム長として赴任し、薬剤局の創設にかかわってきた。「めざしたこと(夢)」は、①薬剤部門が薬物治療をマネジメントする、②すべての病棟に薬剤師を常駐させ、薬物治療に責任をもつてかわる、③プライド・責任感・創造性を有する人材を育成することである。

本稿では、開院後5年が経過した今、薬剤局が薬物治療のマネジメントにどのように関与してきたかを紹介する。

■より親しまれる
薬学的サービスの実践を追求

薬剤局の創設にあたり、理念として「見える薬剤師をめざして、よ

り信頼され、より親しまれる薬学的サービスを実践する」を掲げ、具体的な目標として、①個々の患者さんの立場に立った薬学的ケアサービスの提供、②ファミリー・シューティカル・ケアの概念に則って、臨床薬剤師としての義務と権利について責任を担う、③薬物治療の標準化やEBMの実践などを推進し、効率性、効果性などに貢献する、④保険薬局や医療機関などとの密接連携だけでなく、県民・市民の方々の医薬品情報などの提供サービスの提供、⑤教育・研修・学会活動を積極的に行い、臨床薬剤師としての向上をめざす——の5つを設定した。

組織は薬剤局長、次長の下に医薬品管理部門(調剤科、製剤科、医薬品情報科)と臨床薬剤部門(薬剤管理指導科、救急医療支援科)の2部門5科を設置し、5人の科長を配置することにした。救命救急センターを有することから、勤務は3交替制(日勤、準夜1人、深夜1人)を導入し、休日日勤帯にも3人が勤務し24時間体制を整備した。薬剤師数は開院時21人であったが、5年間で6人の増員が認められ、現在は27人(うち臨時職員4人)と

への処方提案件数(TDMを含む)も年間約1200件で、かつ年々増加していることから、薬剤師は今や病棟では1日たりとも欠かせない存在となっている。病棟への常駐は、薬剤師にも大きな変化をもたらしている。臨床経験を通して急速に資質の向上がみられるほか、入院患者の薬物治療に貢献しているとの自負と自信からモチベーションも高まっている。

■業務の評価指標設定でモチベーション向上

病棟業務は、薬剤部門の管理者が目届かない場所で行う業務である。それだけに、マネジメントが重要となる。そこで、当院では07年5月から、病棟業務を客観的かつ

定量的に評価するための独自の評価指標を設定し、定量的評価を行っている。評価指標は薬剤管理指導実施件数、算定件数、麻薬指導加算件数、高リスク薬品等の薬歴管理件数、持参薬鑑別・登録件数、医薬品情報提供件数、入院患者からの相談件数、医薬品安全管理対応件数、薬品管理(麻薬・向精神薬・毒薬)件数、TDM件数、副作用収集件数、プレアボイド件数等の16項目であり、各評価指標は、病棟フロアごと、且ごとにエクセルの共通フォーマットに登録している。

薬剤部門の管理者としては、毎月、これらの評価指標値を分析し、各病棟における業務内容の特徴や実施状況などを把握するとともに、人員配分や業務改善などを検討することが重要な役割と考えている。また、評価指標の設定は、職員からも「薬剤管理指導算定件数だけでなく多面的に業務内容を評価してくれる、他の病棟での業務内容が把握できて相互理解につながる」と好評で、こうした声も薬剤師のモチベーションを高めてくれている。